

## 濱田政孝略歴

静岡県沼津市に生まれる。母からピアノを学び、父からは絵を、叔父からはラジオの作り方を学ぶ

中学に入ると自設計による無線機の製作や楽器店のエレキアンプなどの修理、アマチュア無線の免許を取得(JA2GCS)後はまり込み、更なる無線機器を作り始める  
高校からは車の改造チューニングにも興味を持ち、後にフルチューニングもこなす  
大学に入ると無線会社を手伝い、箱根の航空局(羽田国際空港の中継局)の修理・メンテナンスを行う

大学では音響工学を学び、機械インピーダンス測定方法などを習得、また楽器店では修理をしながら電子オルガン・シンセサイザーの音作り方法を習得

昭和 47 年 ミタチ音響に入社、社長に 1 年間自由開発を命じられ MM カートリッジの発電機構構造を確立、その後 Victor 音研スタッフとの共同開発で X-1/Z-1 などを世に出す。さらに景山朋先生の下で先生考案の元祖「平板スピーカ朋」の開発・発売に携わる

昭和 55 年 数々の MM カートリッジを世に出してきたが、退社独立、家電小売店を創業、静岡県内の Victor 音響設備工事を数多く受注する

昭和 56 年 静岡県立あしたか職業訓練校の講師を 13 年間務める

平成 20 年 ミタチ音響の再建者としてトーンアームの開発・製造に着手

平成 22 年 トーンアーム MH-104S・MH-124S を発表、翌年には MH-94S を発表

平成 27 年 上位機種 MH-124S(DLC) 及び価格帯が低い MH-9B・MH-10B を発売

令和元年 トーンアーム製造メーカーとして法人化し、株式会社ハマダの代表取締役役に就任。設計・開発・製造を担う

令和 3 年 MH-S タイプの改良モデル 9 吋、10 吋、12 吋を発売、また、B タイプの中間機種 Bt を新発売する

令和 6 年 元音を追求し更なる進化を遂げたプレミアムの SUS と刀(KATANA)の 2 シリーズを発表し、世の注目を集める。同時期に GLANZLAB で商標を変更取得、法人名を株式会社 GLANZLAB に変更、引き続き代表取締役に就任。設計・開発のあくなき挑戦は今も続いている